報告

ECIT 2000 とルーマニア・イアシ工科大学

矢鳴 虎夫*

1. はじめに

EUFIT 2000 (European Conference on Fuzzy and Intelligent Technology, September 25-29, 2000) が、私のメールに今回の実行委員長の Teodorescu 教授から流れてきたのは昨年の暮れのことだった。Teodorescu 教授は私に BMFSA (Biomedical Fuzzy System Association, バイオメディカル・ファジィ・システム学会) [1] として、1 または 2 セッションのオーガナイズを依頼してきた。たまたま私が今期の BMFSA 会長であることと、7 年前、Teodorescu 教授が、九州工大・飯塚キャンパスにおいて山川烈教授と共同研究で数ヶ月来学されていた際に、親交を得て以来、今日までお付き合いさせていただいていることが、今回のオーガナイズを依頼された理由だと思っている。

さて、当初ルーマニアと聞いて、いささか躊躇してしまった。その一方で、東ヨーロッパをいまだ訪問したことのない私にとってはまたとない機会だけに魅力でもあった。ついに積極的な教授の呼びかけに応じるべく BMFSA の会員に ECIT2000 (EUFIT2000 から途中で変更された) への案内用ホームページと私のオーガナイズで 1 ないし 2 セッションを構成したい旨の呼びかけをおこなった。これを行ったのは、今年 2 月初旬で実に 2 ヶ月以上躊躇したことになる。

お陰で、私の分を含めて 8 件の論文発表の応募があり、Teodorescu 教授の依頼に応ずることができたのは大変幸いであった。

ところで、今回なぜ ECIT がルーマニアなのか、その説明が必要であろう。大会がその土地で開催されることは、多くの場合、実行委員長の学会での活動や人格が支配する。今回の場合も、実行委員長の Teodorescu 教授の学会活動の積極性とその人格に負うところ大である。教授は現在、イアシ (IASI) 工科大学・電子情報工学科の中心的教授であると同時に、南フロリダ大学との兼任教授でもある。いつも世界を駆け巡って、ソフトコンピューティングの啓蒙活動をしておられる。とりわけファジィカオスの研究では有名である。研究での活躍ぶりは文献等 (例えば [2], [3]) で知ることが

出来ても人となりは付合ってみないと分らない。今回、学会に参加してみて、改めて心くばりのすごさに触れた。研究室をあげての空港への送迎から、会場に着くなり、昼食のサービスをうけ大なる歓待に浴した次第である。

2. 会場について

さて、会場となったイアシ工科大学の歴史的紹介を少しさせていただく。

この大学の創立は 17 世紀にさかのぼり、1634 年 Trei Lerarhi 教会付属カレッジとしてスタートしている。1813 年になって、Gheorghe Asachi 氏はルーマニアにおける技術教育機関設立の必要性を思い、その最初のものとして、イアシに土木工学 (Civil Engineering) 教育センターを設立した。これが、現在のイアシ工科大学としての基盤となった。その後、このセンターは Michaelian Academy と Alexandru Cuza University として発展し、1937 年には Polytechnical Institute となりさまざまな工学分野の大学教育研究機関として発展し今日に至っている。

Gheorghe Asachi 氏の設立に起源をもつこのイアシ工科大学は、ルーマニアにある 49 の高等教育の中で最も古い伝統をもつ権威ある大学である。5 年制の学部教育と 6 年の修士・博士課程をもつ充実した工科大学・大学院である [4]。

建物はまさに中世ヨーロッパの伝統とアカデミックな風格をそのまま残す重厚なものである。一方で、この伝統を維持しながらも、今やロシアの支配から開放され、旧共産主義を脱皮して 21 世紀に向けての先端工学的教育と研究にも積極的に取り組みは始めている。

3. ECIT 2000 の構成

3.1 協賛機関は：

INNS (International Neural Network Society), SICC (Italian Society for Chaos and Complexity), BUFSA (Balkan Union for Fuzzy Systems & A.I.), FLSI (Fuzzy Logic Systems Institute), BMFSA (Biomedical Fuzzy Systems Association)

* Torao YANARU
九州工業大学工学部電気工学科

3.2 オーガナイズド機関は：

Technical University of Iasi, Faculty of Electronics and Telecommunication. "A.I.I. Cuza" University, Faculty of Mathematics and of Informatics.

"Gr.T. Popa" University of Medicine and Pharmacy Iasi, Medical Bioengineering Faculty, Faculty of Economics. "Petro Andrei" University, Iasi, Institute for Computer Science. Roumanian Academy, Iasi Branch. Roumanian Society for Fuzzy Systems.で構成され、すべてイアシ市内に存在する大学や学科である。つまり、古都イアシ市はルーマニアにおける代表的学園都市である。

3.3 Honorary Chairman と Co-Chairman は：

Hans-Jurgen Zimmermann と Abraham Kardel, Horio-Nicolai Teodorescu.で日本ファジィ学会でもよく知られた先生達である。

3.4 プログラム

1)9月25日(大会1日目)：

5人の大会企画関係者歓迎挨拶の後、午前中は、以下3人の有名な先生達の招待基調講演がなされた：

Hans-Jurgen Zimmermann "Origins, Present Developments and the Future of Computation Intelligence", Kenneth DeJong "Introduction to Evolutionary Computation and its Application", D. Butnariu "Fuzzy Sets; Between Mathematics and Engineering".

午後は3人の招待講演を3時までには終わり、4時から約2時間でイアシ市内の各種大学と史跡見学が企画されていて、歴史的に数百年にわたって干渉国(もしくは地域)としての苦しみを訴える記念碑に触れた。このような体験を持たない私達日本人には、おおよそ真の理解は出来ないにしても、広い歴史観と世界観をもたなければならないことを痛感した。

2)9月26日(大会2日目)：

一般講演

- * Mathematics of Fuzzy Set Symposium : 15件 (Romania 6, Austria 1, Italy 6, Greece 2)
- * Fuzzy Systems : 5件 (Rom. only)
- * Chaos Theory and Applications : 6件 (Romania 5, France 1)
- * Special Session organized by BMFSA : 7件 (Japan 7)
- * Intelligent Systems in Bio-Medical Applications and Human-Related Sciences : 6件 (Rom. only)
- * Advanced Computational Techniques for High Speed Frequency Integrated Circuits : 5件 (Rom. only)

3)9月27日(3日目)：

モルドバ地方への1日バスツア(イアシ市から、バスで約3時間)

写真で見られるような静寂な自然を背景にして、美しい修道院が散在している。教会の壁はキリストをはじめとして名だたる聖人達が描かれており、質素な美しさをたたえている。敬虔な祈りを捧げている多くの修道女や一般庶民を目の当たりにして、近代科学技術のなかであくせくしている自分達と比較してみたいくなる。いったい21世紀人間の目指す方向は、20世紀の効率とスピードを錦の御旗とする価値観の継承であろうか。そうあつてはならないことを思いながらもますます推進されていくのが現実である。心の平穏を最大価値として取り込める科学技術は望めないのだろうか。人間の業の哀しさが想われる基調なツアであった。

ツア終了後、バンケットが始まったのは実に21時からであった。このあたりの時間的感覚は我々日本人にはとても受け入れ難いものだが、それなりに和気あいあいの懇親会は夜11時まで続いた。私は、この席で、日本のファジィとりわけ BMFSA の宣伝をした。

4)9月28日(4日目)

- * Image Analysis and Processing : 4件
 - * Speech and Natural Language Processing : 4件
 - * Other Applications of Intelligent Systems : 7件
 - * Demonstrations Session and Exhibition : 6件
- (上記21件すべてルーマニアの研究者の発表)

4. おわりに

以上、ECIT 2000の参加体験記を書かせていただいた。今回の大会は、ヨーロッパ全体のソフトコンピューティングに関する、理論と応用、とりわけ医療応用への動向が聞けるものと期待しての参加だったが、それは全く期待はずれ、むしろ、ルーマニアの近代化に対して、ソフトコンピューティングの普及の色合いをも

写真 モルドバで修道院を見学する学会参加者達

つ国際会議だったといえる。昨年、ドイツのアーヘンで行われた EUFIT '99からすれば、ルーマニア大会、無理していえば(1国の出席者の数は日本人が2番目)、ルーマニアと日本のソフトコンピューティングに関するジョイント学会だったといえよう。それだけに、我々日本人出席者への暖かい配慮は、とてもマンモス学会では味わえないものだったことはいうまでもない。これからのファジイ・ソフトコンピューティングの国際学会は、いわゆる IEEE などが主催するマンモスの国際会議の推進もさることながら、一方で、開発途上国での支援的国際会議も21世紀における世界的広がりを考える上では極めて重要な学会活動と思われる。

最後に、この記事を書かせていただいた、ファジイ学会の編集委員の方々に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- [1] BMFSA ホームページ：
<http://www.kct.ac.jp/BMFSA/>
- [2] Horio Nikoli Teodorescu, "Soft Computing Technology in Human-Related Science", CRC Press Ltd. 1999.
- [3] Special Issue devoted to "The European Conference on Intelligent Technologies ECIT2000", International Journal of Chaos Theory and Applications, Vol.5, no.3(2000) T&T Press Ltd..
- [4] The "Gheorghe Asachi" Technical University of Iasi
大学案内

「問い合わせ先」

〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1
九州工業大学 工学部電気工学科
矢鳴 虎夫
Tel & Fax : 093-884-3245
Email : yanaru@comp.kyutech.ac.jp